

国 外 実 態 調 査 報 告 書

テーマ : タイにおける剣道・日本文化の理解と普及
ゼミ名 : 潮 清孝 ゼミ
調査日 : 2023 年 12 月 7 日 (木) ~12 月 12 日 (火)
調査先 : 【タイ】Thailand Kendo Club 及び関連団体
授業科目名 : 課題演習 I・II
参加学生数 : 2 名 (2 年生)

調査の趣旨 (目的)

FLP 演習と合同で、タイ・バンコクの日本文化および剣道クラブの訪問および、現地の子供たちとの合同チームによる剣道大会への参加を行った。日本文化としての剣道がタイおよび近隣諸国でどのように普及・伝承されているかについて、様々な団体および年齢の方たちとの交流を通じて理解することを目的として訪問した。

調査結果

今回の調査では、現地の方が主催・運営する剣道場 (エカマイ道場)、および、東南アジア地域の方々が集まり、剣道の段級審査および交流剣道大会が行われる、Nakane Cup を訪問した。タイ (主にバンコク) では、日系企業を勤務先とする日本からの駐在員と、現地の方々の両者が協力して、日本文化および剣道の普及・実践が行われていることが特徴であった。現地の剣道家の方々の多くは、タイで生まれ育ってきた中で剣道や日本文化に触れてきたため、基本的にはタイ語を中心として活動している。海外の方々と接する機会も多いため英語も一定程度話すことができる方が多いものの、日本語を話せる方は少なく、日本駐在員の方々とは主に英語を通じたコミュニケーションである。タイという国自体が、日本企業と共に成長してきた歴史があることから、国民全体としても親日家の方が多く、非常に日本文化に対しても好意的かつ積極的に取り入れる雰囲気がある。そのようななかで、言葉の壁は一定程度ありながらも、現地の剣道家と駐在員の方々とが良好な関係を気づきながら、剣道を通じた文化、国際交流が実践されている点が印象的であった。2024 年には剣道の世界大会も開催されることから、より一層、両者ともに剣道に対する取り組みが熱心であることも感じられた。一方、子供たちへの普及という面では、剣道具不足の問題がある。特に子供たちは身体的な成長とともに道具を買い替える必要がある。近年ではインターネットを通じた販売が盛んではあるが、値段の問題や、また、実際に身に着けて使用する (なおかつ比較的高価) ものであるため、剣道具の普及の面では、多くの課題が残っていることなどがわかった。